

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470700986		
法人名	株式会社ライフケア		
事業所名	うさぎグループホーム		
所在地	三重県松阪市射和町644-2		
自己評価作成日	平成 28 年 2 月 10 日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470700986-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28年 3 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念の家庭的を主体に日々の生活の中で、個々の利用者の思い、その方らしさを大切にし、笑いある当たり前の生活を送っていただけるよう寄り添いながら支援することを重点に介護させてもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設12年目を迎え、同一敷地内のデイサービスと共に運営している一ユニット平屋建ての事業所である。開設当初からデイサービスとグループホームの責任者として看護師の資格を有している施設長を中心に、車椅子利用の5名や徘徊行動のある3名の方の支援に対しては「身体拘束」の弊害について職員と話し合いながら、玄関の施錠やセンサーを設置せず見守りながら支援している様子が伺える。また、地区の幼稚園児や小学生の見学や中学生の職場体験を受け入れたり、地区の宅老所に行きノロウイルス感染防止の話等をして地域貢献に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に掲げているものの、スタッフが認識できているかの確認、再認識する機会も持てていないのが現状である。	基本理念を基に職員の認識として、今年は特に「おだやかに」を心に刻みながら、「笑顔」を大切に支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	12年目の歳月で地域の方々と日々の挨拶。日常会話が出来ており地域の介護施設としての地位は確立していると思う。	民生委員の訪問が随時あり、地域の情報を得ながら地域と交流している。また、高校生の慰問を受けたりして、地域の介護施設としての存在が大きくなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の宅老所訪問、施設への小中学生の職場体験、慰問等で介護について理解・支援を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の開催で地域の方々と活発に意見交換し助言、意見を参考にしてサービスに生かしている。	自治会長や民生委員、市の介護保険課及び包括支援センターの参加を得て二カ月毎に開催している。特に包括支援センターからは、市内の他の事業所の様子を聞いて参考になる内容について事業所としても検討する材料となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で事業所の状況を把握して頂いており、相談も積極的にしている。	介護保険課に行き、介護制度の変更等の内容を聞きながら相談したり情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束をしない」が徹底されているが、再確認での研修が出来ていない。	身体拘束禁止についての勉強会を、マニュアルに基づき事業所内で昨年12月に実施している。徘徊行動のある利用者が3名で、必ず職員が居間から玄関を見ながら対応しており、センサーや施錠をせずに支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の介護の中で適宜注意、指導するが、月1回のカンファレンスでもスタッフ全体で問題提示し注意を払い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者がおらず学ぶ機会を持てていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書・重要事項説明書に目を通して頂き、締結時にはご理解頂けるように疑問点や不安を解決できるよう充分な時間を設け説明させて頂いている。金額については別紙も参照の上細かく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日々の生活の中で要望や想いを聴くよう心がけている。家族には面会時等に聴くようにし、必要に応じ職員・管理者共に検討し改善できる事は改善している。	家族の来所時には、管理者を中心に家族の意見や要望を聴き、日常の介護記録を見せながら話し合っている。事業所に来られない家族に対しては、「うさぎ新聞」を請求書に同封して近況を伝えて喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者も現場に入る機会が増え、代表者と管理者との統率はとれていると思う。職員とは、言い合える関係を築けており、反映することが出来ている。	利用者の状況を共有する「ケア会議」を月一回開催しており、全体の運営についても意見交換している。職員の意見を聞ける自己評価については、管理者が業務日報や職員の意見を集約して作成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が現場に入っており、個々の勤務態度や能力の把握を行っている。個々の職員に合ったスキルアップを目指してもらえるよう務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足で研修内外の機会が確保できない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来ていない。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の介護度も高くなっており、本人様の思いが上手く伝わらないこともあるが、本人様が穏やかに不安なく生活できるよう傍で寄り添うよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり、家族様の様々な思いなども把握する為しっかり話し合いをし、少しでも安心して頂けるような関係作りが出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人様からの情報をしっかり収集し、何を望んでみえるかを見極め、生活全般の介護支援方向性をじっくり話し合うよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、利用者様の知識をスタッフが教えを得ることもあり、共に生活するなかで支え合っている面もある。また、興味をそられる事等を見つけ一緒に楽しんでいる。しかし、上から目線になってしまうこともあり、注意が必要である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者にとって家族というのはかけがえの無い存在である事を充分理解しており、家族様との時間を大切にしている。行事等にも積極的に声をかけ、家族参加を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様が遠方の方が増えており面会が難しくなっているが、電話・手紙などで疎遠にならないように努めている。また、地域のお友達、民生委員様も面会も月に数回来てくださっている。	隣接のデイサービス利用者との交流もあり、知人や親戚の方、民生委員の訪問がある。要望により利用者の親戚に同行する時もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同志のトラブルも多く、スタッフは仲介役となり仲を取り持っている。また、介護度が高く孤立しやすい利用者様には傍に寄り添い孤立感が無いよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転院等があった場合、施設でのケアが継続して適切に行われるよう支援するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを伝えられない状態の方もいる為、日常的に会話や接する機会をなるべく多く持つように努めている。	自分の思いが「言える人」「言えない人」があり、当初のフェースシートの内容との変化点を職員間で話し合いながら意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取り時に情報を得たり、入居後の面会者等からも情報を聞かせてもらい、活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族様、本人様より入居前の聞き取り時に情報を得たり、入居後の家族様の面会者等からも情報を聞かせてもらい、活かせるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にはモニタリング時、家族様には面会時や電話等で意見や想いを聴くようにし、それを元にカンファレンスにて全体で意見交換をし、介護計画を作成している。	見直しの頻度は基本的に6カ月毎となっており、支援内容に基づくモニタリングは毎月実施されているが、評価は項目単位ではなく総合的な内容となっている。	支援内容に対する実施状況の確認は、支援項目毎に確認出来る仕組みとし、業務日誌等の内容に基づき具体的に評価出来る事が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有するようには努めているが、記入漏れや職員間の連携不足で伝達が遅れたり、不足する場面が見られる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	人員不足の為、その日の業務を回すことのみで業務外の事をする工夫がされなくなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近辺の関わりを大切にし、幼稚園や学校等の慰問、文化祭に向けて出展するものを作ったりする中で楽しんでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他、症状にあった病院・入居前からのかかりつけ医での医療が受けられるように支援している。24時間対応を協力医に依頼し、適宜受診・往診を依頼している。	利用者の要望により一名を除き協力医の受診となっており、月一回の往診がある。一名の方の受診には事業所で同行して支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制であり、状態変化や気付きに関し、相談や報告が出来、それについて指示や看護等が受けられる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時サマリーを活用し情報を提供。入院中も面会時に看護師から情報を得たり、病院・家族と連絡を取り、退院後のフォローがしっかり行えるように情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のありかたはマニュアルを作成済みであるが、重度化する前から、家族様と方針や意向を聴けるよう、話しをする機会を設けている。	契約時に「重度化した場合に係る対応指針」を基に説明しており、重度化した時点で再度、主治医と家族を交えて対応の仕方を打ち合わせし、取り組んでいる。昨年是一名の看取り実績があり、対応についての話し合いを記録して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実際事が起きたときに落ち着いた対応が出来るかどうかは不安がある。勉強会の徹底と処置等の説明も写真等も活用する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今季は1回しか消防訓練が出来ていない。夜間1人での対応が問題となるので確実に避難出来る実践力を身に着ける必要がある。	昨年12月には、消火・通報・避難訓練を隣接のデイサービス利用者と共に実施している。地震や火災発生時の夜間想定訓練は、対象職員の勤務状況から困難な事もあり実施の確認は出来なかった。	利用者や職員の不安を和らげる為にも、夜間想定訓練について、図上訓練も含め実施できる検討が望まれる。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一同理解はしており心掛けてはいるが、業務に追われたり、馴れ合いなどで言葉がきつくなってしまうたり、対応がずさんになってしまう事がある為、注意し合うよう心掛けている。	食堂兼居間が少し狭い事もあり、他人に聞こえない方が良い内容については、配慮しながら対応している。個人情報管理については、職員の採用時に誓約書を交わしており、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	聞くことをベースとはしているが、自己決定が困難な利用者様が増えてきているのが現状。選択肢を提示し、選んでもらったり表情にて汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来得る限り本人様のペースで過して頂けるよう援助はしているが、業務優先になってしまう事も多く見られる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介護度が高く整容、おしゃれは難しい為、自己選択は出来ていないが、最低限の身だしなみには心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力に合わせたの食べやすい食事作りをしている。好みを理解したうえで出来るときには合わせている。手伝いも可能な範囲でして頂くが、調理等は困難である。皮むきなどは可能。	昼食は隣接のデイサービスと共に作った物を配膳しており、朝食や土曜、日曜は事業所の職員が作り提供している。誕生日や事業所としての行事の際には、たこ焼き、ホットケーキ等を利用者と作りながら楽しみの工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせ臨機応変に食事や食事形態を変更したり、食の好みを把握し嗜好品を用いたりし、摂取量を確保している。水分もチェック表を使用し、1日の必要な水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア・就寝前の義歯洗浄の実施。 自歯のある方に関しても黒井歯科の往診による定期的な口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターン出来る限り、パンツで過して頂けるよう援助していく。訴えない方にも約2時間毎のトイレの声掛けも行っている。	介護レベル4、5の方も多く、昼夜共に「布パンツ」で過ごせる方は一名のみとなっており、パットやリハビリパンツで対応しているが、利用者に応じて「トイレ誘導」して自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や腹部マッサージ等で予防には努めているが、薬の副作用等で自然排便が困難な状況。Drとも相談しながら排便のコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望する入浴時間、日に入浴は出来ておらず、曜日・時間帯は施設側にて一日おきに決めてしまっている。体調にあわせ、入浴日の入れ替えや清拭・機械浴に変更し対応している。	週3回の入浴を基本に支援しており、車椅子利用の方については、隣接デイサービス事業所の機械浴を利用する時もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝・就寝時間は本人の希望・ペースに合わせている。日中も本人の体調に応じ休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬箱への個数記入、看護・介護記録等へ記録。変更時もその都度訂正し、職員へ周知している。症状など、適宜看護師やDrへ相談できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせたレクを考えながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	介護度、スタッフ不足にて安全に全員での外出が困難になってきている。状態に合わせて、本人様が行きたいところへの外出が出来るよう計画していきたい。	車椅子利用の方が多くなっており、全員での外出機会は少なくなってきているが、敷地内で椅子に座りながら太陽を浴び五感刺激となる様に支援している。季節の花見には出来る限り多くの利用者と出掛ける様にしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている利用者は現在はおらず。買い物などに出掛けた時には財布を渡し、支払いをしてもらったり、お金を数えてもらうといった援助をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の協力して頂ける範囲ではしてもらっている。(手紙のやり取りは難しいが家族様2名が月に1回程度手紙を書いて送ってみえる。)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除、定期的な大掃除にて清潔を保ち、季節に合わせた壁紙や花などを飾ったり、歌を流したりしている。	食堂兼居間及び廊下はクッション材のフローアーとなっており、安全にも配慮されており、少し狭いが窓が大きく明るい。廊下の壁面には利用者や職員と造った作品が掲示され、家族や来所者との話題提供にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が狭く一人になる事は困難。気の合う利用者同士席を近くにする等の配慮はしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険のない範囲で利用者が自宅で使っていたものや思い出のあるものを持参していただき、安心して過せるよう工夫している。	ベッド、クローゼット、洗面台が設置されており、それぞれの好みの物が持ち込まれている居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来ないこと、わからないことを把握して、出来るよう、解る様に援助している。公共の場は表札や飾りを飾る等で工夫している。		